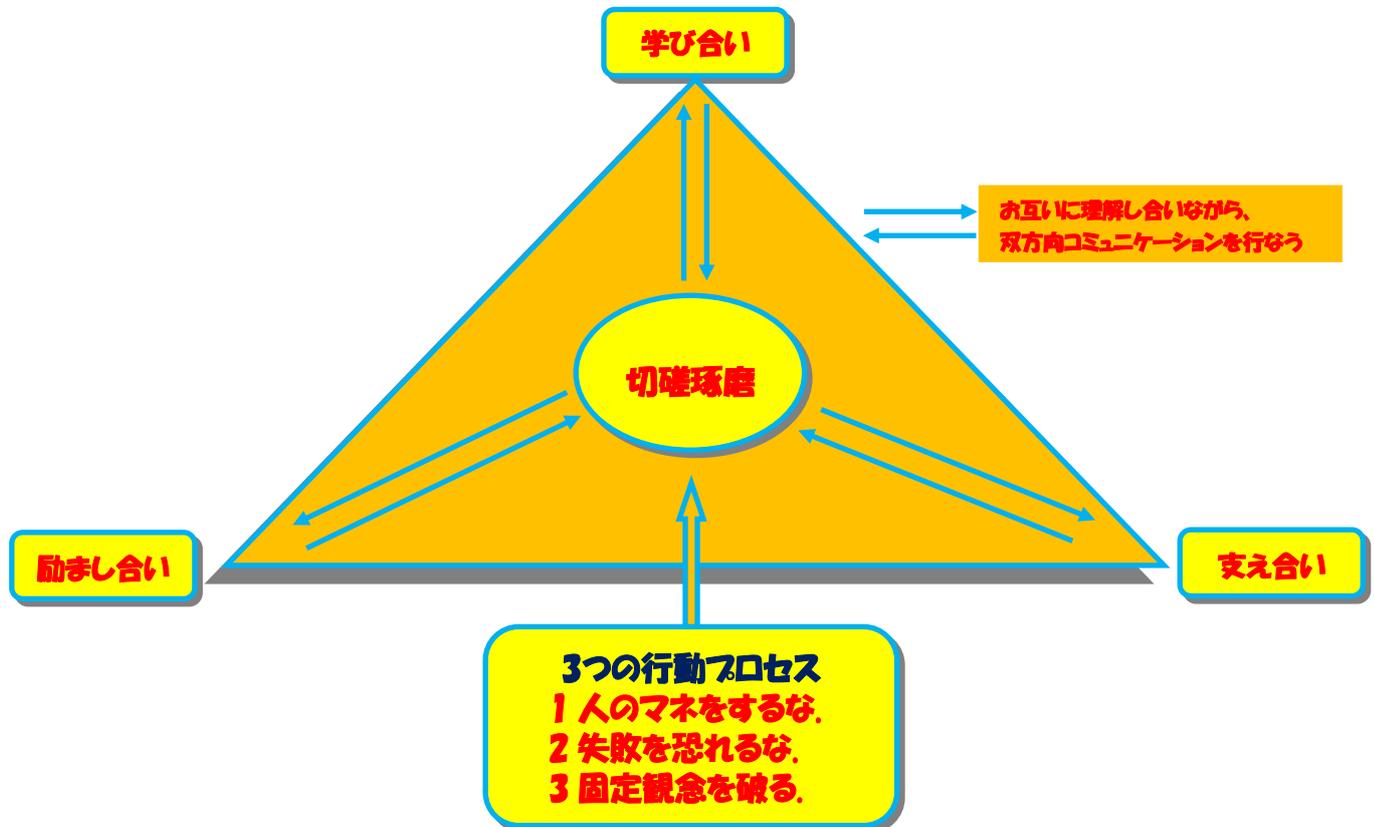


人生において「成功」というものが 我々に与える意味について考える

図1 切磋琢磨への道に辿り着ける3つの条件と3つの行動プロセス



出所:筆者作成。

前回、筆者は「切磋琢磨への道」というテーマについて、記述しました。筆者は、それぞれの原稿を書いている最中に、自己矛盾にぶつかって頭を抱えながら書いていた記憶があります。とりわけ、「切磋琢磨への道」という原稿を書いていた時にジレンマに陥っていました。その悩みの種は、実際に、私自身が周囲の人々と共に切磋琢磨¹⁾しながら、高い志を成し遂げ

¹⁾ ここで言う 切磋琢磨の出典は、中国最古の詩集「詩経」の「衛風(えいふう)・淇奥(きいく)」による。そもそも切磋琢磨とは、それぞれ材料を加工する作業の事を表している言葉として、「切」は骨を加工する時の作業、「磋」とは象牙を加工する時の作業、「琢」とは玉を加工する時の作業、「磨」とは石を加工する時の作業を指す。これらを加工する作業というのは大変手間のかかるものであり、丁寧に取り組まなければならない。このことから、勉強したり道徳に励んで人間を成長させることや、友達同士競い合い励まし合って自分の心身を磨くことを「切磋琢磨」という様になった。辞書によれば「切磋琢磨」とは、「仲間同士互いに励まし合って学問を向上すること」と書かれている。英和辞書によれば、「切磋琢磨」とは、「Work hard together: be in friendly rivalry」と翻訳されている。筆者は、ここで言う切磋琢磨の定義を「同じ志を抱いた仲間同士が定めた目標を最後まで成し遂げるため、友好的なライバル意識を持ちお互い学びあい、励ましあい、支えあい、理解しあいながら成長・発展していくことである」と捉えていきたい。切磋琢磨についての詳細は、徐誠敏「切磋琢磨への道」「ハン脈」第11号、2005年を参照されたい。

るためにかむしゃらに取り組んでいるのかについてのことでした(図1参照)。

なぜ人は、お互いに学びあい、励ましあい、支えあい、理解しあいながら成長・発展していかなければならないのでしょうか。その疑問に対する答えは明白であります。それは、人は社会的動物であるためであります。その金言は、この地球に生きているあらゆる生き物に適用するでしょう。どんな生物でも、一人では生きていけない。仮に生きていけるとしても、すぐにダーウィンの進化論でいう「自然淘汰」に直面することでしょう。つまり、人は周囲の人々と共に、切磋琢磨していきながら人生の頂点または醍醐味を味わうために共生しているということです。

また、人の生き様において、そのタイプは様々あります。例えば、①目先にある自分の成長・発展・利益のみのために、手段を選ばず手に入れるタイプの人、②それらを手に入れるために徹底的かつ合理的に計算しながら、自分に必要な人間関係だけを構築するタイプの人、③自分が置かれている状況がどんな状況であれ、自分の成長・発展・利益だけを優先するのではなく、周囲の人々と喜びや悲しみを分かち合っ、他人の成長・発展・利益のために、迷わずに喜んで手助けするタイプの人などが挙げられます。

誤解を恐れず述べますが、上述した生き様の中で、①、②の中で、特に②の生き様を持っている人とはできるだけ関わりたいくありません。また、自分の同期や目下の人に対する態度と、自分より社会的ステータスや権力が高い人に対する態度が全く正反対である人間の行動を目の当たりにすると、その人を憎むより、可愛そうだと思うことがよくあります。もしそのような行動をポジティブに捉えるならば、そのような行動も本人の努力であるがゆえだと思い、人として失格だとまでは責める気はありません。但し、他人に対する思いやりより自分自身の出世のみのために躍起になっている人の姿を見ると、正直見苦しいとは思います。私自身はそのようなタイプの人を「都合主義の人間」と考えており、そのような人とは普通の友達関係でさえ持ちたくありません。

ここまでの内容をお読みになった方の中で、この人は社会的に出世はできないんだろうと置いていっちゃう方がいるかと思われま。もしかしたら、それが答えかもしれません。しかし、私は自分の人生のピリオドを打つ日までその考え方に対する迷いは全くありません。考え方は人それぞれです。この生き方は私の人生観ではあるが、これを読んでくださった方が一人でも共感してくれることを願って、本稿の本題に入りたいと思います。

人生において、成功という言葉が我々に与える意味は何でしょうか？その言葉に対する我々の捉え方はそれぞれ異なるでしょう。たとえば、ある人にとっては社会的なステータスを高めていくことが目標であると同時に、成功という言葉が与える意味に結びつくでしょう。また、他の人にとっては、お金を稼いで金を手に入れることが成功という意味に結びつくでしょう。さらに、上述した前者と後者両方を達成することが成功と言える人もいるでしょう。

我々のような大学生または大学院生にとっての成功が意味するものは何でしょうか。学部生の場合には、優秀な成績を収め、良い会社に就くのが成功なのでしょう。大学院生の場合には、良い論文を書いて良い大学に就くのが成功なのでしょう。

実際に、会社または学校で自分に与えられた仕事(職務遂行)を果たし、業績を上げ昇進していくのが成功と言えるのでしょうか。

最近、私は学校の研究室や家で我々の人生において「成功」というものが我々に与える真の意味とは何なのかについて考え込む時間が増えています。人は成功したがゆえに、幸せを感じるようになるのでしょうか。自分は幸せだと思いながら、前向きに自分の仕事を果たした結果、成功するのでしょうか。

正直、筆者は人生において成功とはこれだという明確な正解はないと思われま。なぜなら、国籍や人種を問わず、人間社会において人々が思っている価値観や人生観はそれぞれ異なっており、彼ら各々が背負っている苦悩の程度も異なっているからであります。それゆえに、人生において成功というものが我々人間に与える意味とは一元的主義の視点から定義するのはきわめて難しいことではないかと考えております。つまり、それに関する意味とは多義的な解釈主観論的な視点から定義されるべきではないと考えております。

一般に、我々が知りうる「成功への道」として「日々の努力の積み重ねが大事である」ということを頭の中で認識するが、実際にそれを行動で実践する人はほんのわずかしきありません。言い換えるならば、口頭で言うのは簡単ですが、当たり前のことを実際に日常生活において自らの行動で実践するのはそんなに簡単なことではないと思っているのは私だけでしょうか。

上述したように、人生において成功というものが我々に与える意味とは、個々人の様々な視点から解釈することができるでしょう。本稿の目的は、「成功というものが我々に与える意味」を問題提起することにあります。

そこで、ここからは、我々の人間社会における人生の成功というものは何かについて、田坂(2005)¹⁾に基づき、述べていきたいと思ひます。

彼は、「人生の成功とは何か」という本の冒頭で、我々の人生の最期の一瞬に問われる究極の成功の定義を述べています。その内容は、以下のようであります。「いま、一つの人生を終えようとしています。もし、あなたは今まで歩んできた人生とまったく同じ人生を、何度も、永遠に生きようと問われるならば、然りと答えることができますか」という問いかけに対して「然り」答えることができるならば、それは「成功した人生」であると彼は記述しています。

しかし、上述した問いかけに対して、迷わずに堂々と「然り」と答える人々は少なくとも多くはないだろうと思われま。なぜならば、我々の人生には多くの苦勞や困難、失敗や敗北、そして挫折や喪失というものに必ずぶつかるからであります。それらに当てはまる例として、経済的な貧困という苦勞、長い闘病生活という困難、大切な受験における失敗、社内の競争における敗北、若くして両親を失う喪失などが挙げられます。

我々が、もし本当に「人生の成功」の意味について真剣に考えたいのであれば、それに対して問う前に、我々は「人生の個性」を見出さなければならぬ、「自分らしさ(自分の存在意義 = 自分のアイデンティティ)」を見つければならぬということを確認に定義しなければならぬ

¹⁾ 詳しくは、田坂広志「人生の成功とは」PHP研究所、2005年を参照されたい。

らないです。ここで、田坂はこう述べています。もし、あなたが、これから、長き人生の道歩み始めるならば、いま、この問いについて、深く自らに問い、自分にとっての「人生の成功」の意味を定めるべきであると記述しています。そのときに、我々は、世の中の風潮に流されることなく、自分にとって本当に「生き甲斐」ある道を行っていくことができるでしょう。

いずれにしても、この問いを、日々の日常生活において深く問うことによって、自分の人生を新たな視点から見つめ直し、残された人生の時間を豊かな時間として生きていくことができるでしょう。

田坂は、過去の多くの人生論において、この問いに対する様々な答えや思想を振り返って、それらの思想の本質を見つめるならば、世の中には、この「人生の成功」について「三つの思想」、すなわち「勝者の思想」「達成の思想」「成長の思想」が存在すると論じています。また、彼は、それら「三つの思想」は決して相対立する思想ではないと述べています。さらに、それらの思想は、我々の心の中に、同時に存在している思想であり、年月をかけて、成熟し、深化していく思想であると記述しています。

「三つの思想」のうち、我々が、人生の最初の時期に影響を受ける思想は、「勝者の思想」であります。この思想の特徴は、「競争」という言葉から表れると思われます。この「勝者の思想」は、人生を「競争」と見なし、その競争において「勝者」となることを人生の成功と捉える思想であります。

とりわけ、このような「勝者の思想」は、わが国の韓国や日本においても、物心のついたときから、我々の心に刻みつけられています。子供の頃から「受験教育(競争)」や「偏差値教育」という厳しい競争の中に投げ込まれ、我々はその競争社会で勝ち残ることが人生の成功につながると教わってきたと思われます。このような「勝者の思想」は、いま、世の中に溢れている思想でもあります。なぜならば、「競争社会」または「格差社会」へと向かっているからであります。

しかし、我々が、この「競争原理」を社会に取り入れるとき、そこに大きな落とし穴があることに気がついていかなければならないです。それは、「人間観」の貧困であります。その結果、「競争原理」の導入とともに、この人間観が、社会全体に強い影響力を持って広がり、もう一つの大切な人間観が見失われてしまいます。それは、「人間は、素晴らしい夢を心に抱いたとき、一所懸命に努力する」という人間観であります。

我々人間が一所懸命に働くのは、単に競争に駆り立てられるときだけではなく、素晴らしい夢や志を心に抱いたとき、人間は、他から強制されなくとも、自分自身の意志で、一所懸命に働き、自分自身も驚くほどの、大きな力(潜在能力)を発揮することができると思われま

す。

ここで、我々は人間社会において、ただひたすらに「競争原理」の導入を図る前に、政府の政策は国民が将来への夢を描けるものになっているのか、企業の経営は従業員²⁾が未来への

²⁾ ここで言う従業員は、企業のトップ経営陣から現場の従業員までのあらゆる内部ステークホルダー

夢を描けるものになっているのかといったことを問うべきでしょう。

しかし、残念ながら、いま、世の中に溢れるのは、「競争が社会を良くする」というメッセージだけであり、国民が「生き甲斐」を感じ、従業員が「働き甲斐」を感じる希望に満ちたメッセージはなかなか聞こえてこないのが現状であります。それゆえに、「競争社会」が徹底していく社会において、我々の意識に刷り込まれていくのが、「競争での勝者＝人生の成功者」という素朴な発想が形成されていくのです。

この「競争社会」において、「勝者」の定義には、三つの視点が挙げられます。まず第1としては、「経済的勝者」とでも呼ぶべきものであり、他人よりも高い給料や年収を得ることあります。第2は、「地位的勝者」とでも呼ぶべきものであり、他人よりも高い役職や地位に就くことあります。第3は、「名声的勝者」とでも呼ぶべきものであり、他人よりも高い名声や名誉を得ることあります。

しかし、このような「勝者の思想」を心に抱き、「人生の成功」を求めて歩んでいくとき、「人生の成功」を追い求めて歩んでいくとき、我々には、必ずこの思想の限界が見えてきます。なぜならば、それは誰もが認めざる得ない一つの事実があるからであります。すなわち、それは「勝者になれるのは、一握りの人間だけである」という冷徹な事実があるからであります。それが、まさしく競争社会の本質であると言えるでしょう。なぜならば、「誰が勝者になれば、必ず誰かが敗者になる」「誰かが何かを得れば、必ず誰かが何かを失う」という単純な基本的な原理が競争社会の本質であるからです。上述したような限界があるがゆえに、競争社会において、たとえ勝者となっても、三つの問題に直面するのであります。第1の問題は競争の限界である「競争の勝利」から「果てしない競争」へと、第2の問題は勝利の限界である「勝者の喜び」から「精神の荒廃」へ、第3の問題は勝者の限界である「集団競争の勝利」から「人間関係の疎外」へと展開されていきます。

我々は、「勝者の思想」がこうした問題に直面するとき、我々の中では、自然に、さらに成熟した思想が芽生えてきます。それは、競争での「勝敗」に左右されない思想であります。そこで、我々の心の中に芽生えてくるものは、「達成の思想」であります。この思想の特徴は、「目標」という言葉から表れると思われれます。ここで言う「達成の思想」とは、人生において明確な「目標」を定め、それを「達成」することを人生の成功と捉える思想であります。言い換えるならば、それは自分にとって価値ある「目標」を定め、その目標を「達成」することによって成功の喜びを得る思想であります。

これまで述べてきた「勝者の思想」とは、他の登山家との競争をしながら、誰よりも早く山頂に辿り着くことを喜びと捉える思想であり、誰よりも高い山に登ることを喜びと見なす思想であります。

これに対して、「達成の思想」とは、他の登山家との勝敗にこだわることなく、自分自身のベストを尽くして登り続け、その山頂に辿り着くことそれ自体を喜びと捉える思想であり、自

のことを指す。

分自身が登ろうと考えた山頂に辿り着くことを人生の成功と考える思想であります。

なぜこの「達成の思想」が「勝者の思想」よりも成熟した思想であるのかは、三つの意味で成熟した思想であると言えます。それらは、①「喜びの奪い合い」から「喜びの高め合い」へ、②「他人の目による評価」から「自分らしさ(自分のアイデンティティ)の表現」へ、③「他社との戦い」から「自己との戦い」へという意味であります。

このように、「勝者の思想」は「達成の思想」へと成熟していき、この「達成の思想」に比べて成熟した思想であると言えますが、この思想もまた、いつか、さらに深い問題に突き当たります。それらは、①「才能と努力」から「境遇と運命」へ、②「目標の達成」から「達成後の目標」へ、③「欠乏感の意欲」から「感謝の意欲」へという問題であります。³⁾

この「達成の思想」のその先にあるさらに深みある思想とは、「成長の思想」であります。その思想の特徴は、人生の「困難」と格闘することによって、人間として「成長」すること、そして、人間として「成長」し続けていくことを、人生の成功と考えることであります。我々が一所懸命に仕事をするのは、ただ収入や地位や名声のためではなく、人格を磨き、成長していくためであります。我々が様々な苦勞や困難を越えて、この人生を一所懸命に生きるのは、競争で勝者となるためでも、目標を達成するためでもなく、人格を磨き、成長していくためであります。これが「成長の思想」の根底にある覚悟であります。

このような「成長の思想」を抱いて歩むとき、我々の生き方は、三つの意味で深まっていきます。それらは、①「否定的な出来事」から「可能性を拓く機会」へ、②「達成する強さ」から「成長する強さ」へ、③「人物への成長」から「一日の成長」へと意味であります。まず、①の場合で意味する「成長の思想」とは、人生において、否定的な出来事に遭遇したとき、それらの出来事に押し潰されることなく、それらの出来事から逃避することなく、それを自分の「糧」と捉えることができる思想であります。

そのことを教えてくれるエピソードは、いま米国プロ野球大メジャー・リーグで大活躍しているイチローにまつわる逸話であります。イチロー選手があるピッチャーとの対戦で、何試合もヒットを打てず、押さえ込まれたとき、「あのピッチャーは、苦手のピッチャーですか」という問いに対してイチロー選手はこう答えました。「いいえ、そうではありません。彼は、自分の可能性を引き出してくれる素晴らしいピッチャーです。だから、自分も、力を磨いて、彼の可能性を引き出せるバッターになりたいですね」。このイチロー選手のコメントは、我々に、「困難」ということの、本当の意味を教えてください。

②の場合に、我々が「成長の思想」に目を向けるとき、そこに「強さ」ということの新たな定義が生まれてくることを意味しています。それは、「必ず勝利する」という強さや「必ず達成する」という強さではなく、「必ず成長する」という強さであります。つまり、それは我々の人生において、いかなる敗北がやってこようとも、いかなる挫折を味わおうとも、その敗北と挫折の

³⁾ 「達成の思想」を抱いて歩むとき、見えてくる限界についての詳細の内容に関しては、田坂(2005)の90-111ページを参照されたい。

体験の中から、必ず何かを掴み、必ず成功するということを意味しています。

③の場合は、もし「人物への成長」という発想が密やかな「達成の思想」であるならば我々は「成長の思想」を抱いて歩むとき、そこで目指すべき「成長」とは、「一日の成長」であると言えます。すなわち、それは今日という一日を生きたとき、今日という一日の経験だけ、確かな成長を遂げるということを意味しています。このような生き方こそが「成長の思想」が目指すものであります。

皆さん、我々はいつ人生の終焉を迎えるのか分かりません。その真実があるかぎり、何十年か先の達成は、約束されていないのです。それゆえに、「成長」の究極の意味とは、「一日の成長」に他なりません。その一日、一日を、確かに成長していくためには、「一日を生き切る」という心構えを身につけなければならぬのです。もし、その生き方ができるならば、そのとき、我々は、その一日、「最高の成長」を遂げることができるでしょう。

以上のように、田坂の考え方に基づき、我々が世の中に存在する「成功の思想」の本質を、「勝者の思想」「達成の思想」「成長の思想」という三つの思想で検討しました。

今まで、本稿で述べてきた「人生において成功というものが我々に与える意味」についての明確な結論を下すのはなかなか難しいことであり、我々人間にとって永遠の課題とも言えるでしょう。念のため、繰り返し述べますが、皆さん、この問いに対する明確な答えはありません。しかし、我々人間は、その問いに対する答えを探し求め、常に周りの人々と議論していきながら、日々の努力を積み重ねていくしかないと考えられます。

本稿を読み、「人生において成功というものが我々に与える意味」に対し、一人でも何かを感じとってくれる人がいれば、書き手として幸いであります。

【参考文献】

田坂広志「人生の成功とは何か」PHP研究所、2005年。